

2019 SUPER GT 第 5 戦

富士スピードウェイ

2019 年 8 月 3 日(土)

予選 来場者: 天候: 曇り時々晴れ

2019 年 SUPER GT シリーズは、ここから後半戦。第 2 戦に続き 2 回目の富士スピードウェイを舞台に第 5 戦が行われる。前半戦を終えて LEXUS TEAM KeePer TOM'S の 37 号車はドライバーズランキング 2 位。チームランキング 1 位。獲得ポイント 34 点でウエイトハンディは、GT500 クラス中 2 番目に重い 68kg という状況の中で苦しい予選展開となり、Q1 敗退、決勝は 14 番手グリッドからスタートを切ることとなった。



- 68kg のハンディウエイトの実態は、実ウエイト 34kg と燃料リストリクター(流量制限)第 2 ランクで、「重荷と出力抑制」併用によりトップスピードを含め総合性能が抑えられている。
- 平川 亮が Q1 のタイムアタックを担当した。
- じっくりとタイヤのウォームアップをする予定でコースイン。しかし、その後のクリアラップが取れない状況と、最終的にタイヤのコンディションが最高な状態になる直前でタイムアップしてしまった。
- 毎回僅差の Q1 突破をかけてのタイムアタック合戦に事実上参戦する以前にセッションが終了してしまった。
- ニック・キャンディの予選走行チャンスは無かった。

Driver	Car No.	Qualifying 1		Qualifying 2	
平川 亮	37	P14	1' 29.861		
ニック・キャンディ					

天候/路面	曇り時々晴れ/ドライ
気温/路面温度	31~31°C/40~36°C

平川 亮 (37 号車ドライバー)



「タイヤのウォームアップを失敗してしまったこともあったのですが、時間を読み間違えてコースインするのが遅れ、本当は 1 周後にアタックしたかったのですが、1 周前でアタックしなくてはならなくなりました。しかし、予定どおりにアタックしたとしてもどれだけタイムアップできたかはわかりません。上がってもコンマ 1、コンマ 2 秒だったでしょうからあまり良いグリッドではなかったでしょう。決勝は練習走行のロングラン状況が良かったので、順位アップはできると思います」

ニック・キャンディ (37 号車ドライバー)



「予選のタイムアタックのチャンスは無かったけれど、午前中に行われたフリー走行で決勝のロングランに関して全く問題は無かった。しかし、ストレートスピードは最大 10kg 近く遅い。それは、どうしようもない。コーナーで他のマシンを抜いたとしても、再びストレートで抜き返されるということが繰り返されるだろう。それでも、それに耐えてできるだけ多くのポイントを稼いでチャンピオン争いに生き残っていくことが大事だと思っている」

小枝正樹 (37 号車エンジニア)



「作戦を間違えてしまいました。もう少し早めにコースインさせてあげれば良かったですね。タイヤのウォームアップが思った以上に時間がかかってしまい、アタックする時間がなくなりました。午前中の練習走行の状況をみれば、もう少しタイムアップできていたと思いますが、厳しいハンディウエイトでは上位に食い込むのは難しかったと思います。しかし、かなりウエイトが載っている 38 号車が前にいるので、こちらには何か足りないのでしょう。それを見つけて決勝に臨みます」

山田 淳 (37 号車監督)



「亮がコースインしてからウォームアップに時間がかかってしまい、タイヤの温度も思うように上がらなかったし、時間が足りなくなっていました。タイヤが最高の状況になる前にアタックをしなくてはならなくなり、やはりタイムが出せませんでしたね。もう1周後にアタックできていれば、Q1は突破できたと思います。ストレートが長い富士ではトップスピードが低いと、どうしようもないですね。トップグループの最高速は300kmを超えていますが、37号車は292km、293kmぐらいが精一杯ですから、苦しいです。マシンは特に問題を抱えているわけではないので決勝では確実に順位アップはできると思いますが、ストレートで他車を抜いていくのは相当難しいでしょう」

舘 信秀 (総監督)



「ハンディウエイトと2ランクの燃料リストラクターによってストレートでスピードが出ないという状況は、ここ富士では致命的ですね。しかし、同じような状況にある38号車がわれわれよりも上位グリッドにいるのはなぜなのか。トムスは、予選が下手なのか。決勝は強いのに予選がうまくいかないことが多いですね。ほぼ最後尾のグリッドからだから決勝は苦しい展開になると思いますが、ポイントゲットを目指して頑張るしかないです」

2019 SUPER GT 第5戦

富士スピードウェイ

2019年8月4日(日)

決勝

来場者: 38,100人

天候: 晴れ

ポイントランキング 2 位。68kg のハンディウエイトは確実に俊足を奪っていた。決勝のスターティンググリッドは 14 番手。GT500 クラスの後ろから数えて 2 番目のグリッドから 500mile レースをスタートした。それでも徐々に順位アップし、ポイント獲得圏内で 2 ステイント*1 目に突入したが、そのステイント終盤にセーフティカーがコースインし、ピットインのタイミングを逃して大きく後退。スタート時の振り出しに戻る展開となってしまった。しかし、そこから再び着実に順位アップし、149 周目に 4 位へ躍進し、その順位をキープしてゴールした。

*1:ステイントとは区分、区切り、期間の意(第1ステイント=スタートから1回目のピットインまで。第2ステイント=1回目のピットインから2回目のピットインまで。以降同じ)



- ニック・キャンディがスタートドライバーを担当した。
- ハンディウエイトもさることながら、燃料リストラクター第2ランクにより供給燃料の流量を制限されているためトップスピードが全く伸びない状況で苦しい序盤戦を戦った。
- 第1ステイントを他のチームよりも多く周回していたため、第2ステイント担当の平川 亮は2回目のピットインも他チームよりも遅めの予定で周回していた。しかし、上位チームがピットインを終えた直後に38号車がコースオフし、クラッシュ。これによりセーフティカーがコースインしたため、セーフティカーが退去するまでピットインをすることができず、大きく順位を下げる事となった。
- 2回目のピットインを終えて13位でレースに復帰。
- 耐える走行が続いたが、着実に順位をアップし、再び10位以内に順位を挽回。
- 最終4回目のピットインを控えて5位まで順位アップ。139周してピットイン。
- 一旦8位まで下がるが、142周目に6位へ上がり、147周目に5位へ。そして、さらに149周目には4位へ。
- 最終的に4位でゴールし、10ポイントを加算。ランキング2位を堅持した。

Driver	Car No.	Race Result/Fastest Lap	
平川 亮	37	P4	1' 31.968
ニック・キャンディ			1' 31.873

天候/路面	晴れ/ドライ
気温/路面温度	33°C~28°C/51°C~32°C

平川 亮(37号車ドライバー)



「自分としては、今回は6位か7位に入れたら良いなと思っていたので、4位は上出来です。しかし、6号車が優勝したのを見ると、悔しいと言うか、あつちは運も良かったのですが、やはり悔しいですね。ポイントが大きく離れてしまったのでこれまた悔しさが増します。僕らにもラッキーな面もありましたし、タイヤの特性が3ステイント目くらいからマッチしてくれて速さが出てきて、そこから最後までペースは良かったです。運、不運はありましたが、4位フィニッシュを喜びたいと思いますし、次戦のオートポリスで点差を詰められると思うので、諦めずに頑張ります」

ニック・キャンディ(37号車ドライバー)



「思っていた以上の結果を残すことができ凄く良かったです。でも、スタートしてからの最初のステイントは、前を追いかけることもできず離されるばかりでした。リストラクターだけの影響でなくエンジンの調子もあまり良くなかったです。最初のセーフティカーでピットインのチャンスを逃し、コース上にとどまらざるを得なかった時には最悪な気持ちでした。しかし、そこからペースアップでき、最高の作戦もあってドンと順位アップすることができました。われわれにもラッキーな部分もあったけど、6号車ほどではなかった。もちろんこれからもチャンピオンを目指して戦います」

小枝正樹(37号車エンジニア)



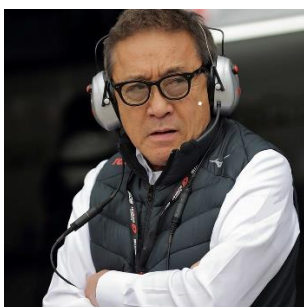
「6号車にはしてやられましたけど、終わってみれば4位は良かったです。しかし、序盤はペースが上がらず苦しい展開となってしまいました。周回を重ねる毎に速さを取り戻して、ドライバーもあきらめずに頑張ってくれました。他のLEXUS チームとは異なるタイヤチョイスをしていたのですが、時間を経る毎に気温も路面温度も低くなってきて、タイヤパフォーマンスも上がったようですし、空気が若干冷えてエンジンの調子も良くなったようです。最初のセーフティカーが入った時には、上位フィニッシュの可能性がなくなっていたのですが、4位はそこから立て直して頑張った結果です」

山田 淳(37号車監督)



「終わってみれば4位。予選の結果を考えれば上出来なのですが、リストラクターの影響でストレートスピードが全く伸びなかったのも、その状況の中で粛々とレースをするしかなかった、というのが事実でした。目標はポイントゲット、10位以内。そして6号車よりも前でゴールしたかったのですが、2回目のセーフティカーで6号車は大ラッキーでした。うまく直前にピットインできましたからね。1回目のセーフティカーではとても不運な展開になったのですが、そこから二人のドライバーがとてもよく走ってくれ、チームはストラテジーを駆使して得た4位です。ランキング2位を守っていますが、トップとの差が開いてしまいました。次戦のオートポリスも苦しい展開が予想されますが、チャンピオンを目指して戦い続けます」

館 信秀(総監督)



「トムスらしいレースといったらトムスらしいレースだったかもしれないです。グリッドの後方からもあきらめずによく戦ったと思います。〈決勝に強いトムス〉でした。2回目のピットストップのタイミングは、アンラッキーそのものでした。しかし、そこから耐えて追い上げました。できればもっとたくさんのポイントを獲得したかったのですが、ランキング2位を守ったのは、今後の3戦に向けてチャンピオンの可能性を大きくしました。勝負はこれからです」